

ウロコゴケ目クサリゴケ科

カビゴケ

Leptolejeunea elliptica (Lehm. et Lindenb.) Schiffn.

島根県:絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

写真 口絵 17

島根県固有評価:—

環境省:準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

生葉上苔類の 1 種で、温暖で湿潤な地域の常緑広葉樹やシダなどの葉上に生育する。植物体が微小で大気乾燥や汚染など環境変化の影響を受けやすく、近年各地で急速に減少している。環境省によるカテゴリーでは準絶滅危惧に指定されている。

【概要】

茎葉体の大きさは長さ 5 - 10mm、幅は葉を含めて 1mm 未満。茎は基物の葉上をはい不規則に分枝している。長さ 0.4mm の長だ円形の葉には、大型の油体をもつ眼点細胞が散在したり、鬼の面のような形をした腹葉などの特徴をもつが顕微鏡でないと種の同定は困難。しかし、生育地では独特な香りを放ち、その存在を知ることができる。南方系の苔で国内では福島県以南のおもに太平洋側に分布。

【県内での生育地域・生育環境】

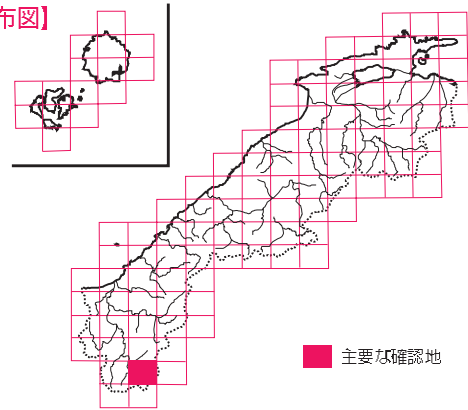
沢沿いの山林内。湧水のある岩棚にミズゴケが生育す

る湿潤な大気環境。樹の枝やササの稈などに着生。

【存続を脅かす要因】

樹木伐採、大気環境の変化。

【分布図】



生育地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		△		○																	

蘚苔類

絶滅
野生絶滅

絶滅危惧 I 類

絶滅危惧 II 類

準絶滅危惧

情報不足